



# 地域ボランティア プログラム 「事後学習」

2017/2/16

## 地域ボランティアプログラム「事後学習」

2月16日(木)、南大沢キャンパスにて、地域ボランティアプログラムの「事後学習」を実施しました。この事後学習は、今年度の地域ボランティアプログラムの活動がすべて終了した後、これまでの活動を振り返り、他のメンバーと共有することで、自分自身の想いと向き合ったり、多角的な視点からボランティア活動の効果と意義を考えることで、活動を学びと成長につなげることを目的に行いました。連携団体である「ひなた緑地遊学会」の方にもお越しいただき、共に振り返りを行いました。

### 「ココロ(キモチ)」の振り返り

最初は、「ココロ(キモチ)」の振り返りとして、感情面の振り返りを行いました。活動の中で、「最も感情が動いた場面」をまずは各自で考え、その後、グループで共有しました。「最も感情が動いた場面」として、「竹の間伐を行ったことで、太陽の光が入り、竹林が明るくなるなど、目に見える成果があったとき」「竹を切ったり、自然のもので工作する楽しさを感じたとき」「古い竹は硬いなど、実際にやってみたらこそ分かったことがあったとき」「ボランティアの意味や魅力を感じたとき」などの場面が挙げられました。また、「蚊が多くて辛かった」「ケガなどヒヤリとする場面があった」など、ネガティブな感情をもった場面も挙げられました。活動を振り返り、ポジティブな感情もネガティブな感情も両方の観点から、自分自身の気持ちと向き合うことができたようです。

### 「アタマ」の振り返り

次に、「アタマ」の振り返りとして、今回取り組んだボランティア活動の効果・意義について各自で考え、その後、グループで共有しました。

そして、そこで挙げられた効果・意義を①ボランティア自身、②課題の当事者・活動の対象、③活動する組織、④地域・社会、といった対象別に分けて可視化しました。

＜①ボランティア自身にとって＞

- ・里山保全に関する知識や技術の習得
- ・視野が広がり、自分を見つめ直すきっかけになった
- ・豊かな自然に気づき、首都大生としての自覚や愛着が高まった

＜②活動の対象(緑地)にとって＞

- ・竹林整備による里山保全や生態系の保全・再生への貢献
- ・竹の新たな利用方法を考えるきっかけになった

＜③活動する組織(連携団体である「ひなた緑地遊学会」)にとって＞

- ・理解者や労力が増加したことで、人材育成や活動領域の拡大につながる
- ・異世代間交流が広がり、パワーを得られたり、フレッシュな考えや企画のアイデアが得られる
- ・連携することで認知度が高まり、社会的な評価を得ることができる

＜④地域・社会にとって＞

- ・活動を通して多世代の人が集まり、分断されがちな世代間の交流の場をつくることができる
- ・現在の問題の認識を広く伝えることができ、それを次の世代につなげることができる

### 首都東京をどのような街にしたいか

最後に、事前学習 I で作成した「首都東京をどのような街にしたいか、その中に自分をどのように位置づけたいか」という「ボランティア宣言」を

振り返り、活動を終えた今、その考えや思いに変化があったかどうかを発表しました。多くの学生が当初と軸は変わらないものの、表面的な言葉ではなく深く理解し、より具体的なビジョンをもつようになった様子でした。

### 参加学生の声

「事後学習」全体を通して、参加した学生からは、「同じ活動をしたメンバーや人生経験のある先生や遊学会の皆さんと話すことで、自分と同じまたは異なる評価を知ることができ、自分の将来を考える機会になった」「最初は里山保全の活動だと思っていたが、活動を通して、地域について考え、地域の方と交流できたことが一番大きな成果だった」「ボランティアが自らのためだけでなく、その場や地域へも影響を与えるということの理解につながった」などの感想が聞かれました。学生たちはこの活動を通して、地域の中で、地域課題と向き合い、行動することを通して、地域の方々から学び、大学や地域に対して愛着を感じる事ができたようです。また、里山への課題、地域のつながりへの課題、そして、ボランティア活動そのものに対しても学ぶことができたようです。

今年度の活動は、これで終了になりますが、希望者は、新規メンバーを支える「サポーター」として2年目も継続することができます。どのような形でもいいので、それぞれが今回、学んだことをそれぞれのフィールドで活かしてほしいと願っています。

